

輝かがやき

第4号

発行 平成16年7月1日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

<目次>

- 茨城県立図書館新館長のあいさつ
- 県立図書館ボランティア全体会報告<4月25日>
- 新ボランティアに聞く
 - ～児童サービスに登録して～
 - ～広報ボランティアに参加して～
- 子ども読書フェスティバル開かれる
 - ～図書館ボランティア延べ47名参加協力～
- 各委員長からのエールメッセージ

今年の4月より県立図書館は住谷凱図書館長をお迎えしました。
新館長の抱負を伺いました。

ごあいさつ

茨城県立図書館長 住谷 凱

この度の人事異動により館長を任じられ2ヵ月を迎えますが、職責の重さをひしひしと感じているところです。又、着任以来、ボランティアの皆様方の積極的な活動を間近に拝見し敬意を表するとともに、館運営の大きな力であることを痛感しているところです。

人はある局面に立たされると、「もうだめだからやめよう」という自分と「まだだめだからやってみよう」という自分の二つに分かれると言われております。始めからだめだと思ってやることと、これをやるこ

とによって何かができるのではないかと希望や目的を持って行うことでは、その結果は大きく違ってまいります。例えば、自分がやっていることで、この人達の将来が開けていこう、豊かな社会になっていこうと希望や夢を持って行動することが大切であり、それによって自分自身も高められていくことになると思います。どうぞ皆様方自己実現を目指し、ご活躍されますことをご祈念申し上げあいさついたします。

県立図書館ボランティア全体会報告《4月25日》



説明を聞くボランティアのみなさん

2階視聴覚ホールにおきまして、定刻 13 時 50 分に開会。

会場を一覧しましたところ、出席者の少なさに驚きました。概算したところ、16年度の新人は採用者 88 名中 70 名弱、15年度



視聴覚ホールにて

までの先輩は登録 149 名中ほぼ 20%の出席者を数えた次第でした。新年度出発時の登録総数 237 名にたいして、この出席状況ではいかにも寂しいスタート風景でした。

つい先日着任の新館長、ボランティア協議会会長の挨拶、副館長以下担当職員の紹介の後、図書館業務の概要紹介が各担当責任者により行われました。

この概要紹介は発言者が今日に備えて、研鑽をなされたとみられるような今までにない簡潔明瞭な説明でした。今年度の新人諸氏は県立図書館の現況について、ざっとながら理解出来たことでしょう。

新年早々にこのような全体会が開催されたことはなによりのことと考えられます。

〔上条 哲〕

新ボランティアにきく

4月から私達の仲間となられた新ボランティアの皆様。幾人かにフレッシュな抱負や感想をいただきました

児童サービスに登録して

大谷 耕治

自宅でわが子への読み(押し)聞かせを続けている中、もっと朗読の勉強をしてみたい、たくさんの子どもの前でお話ができるようになりたい、そんな思いからこのたび児童サービスに登録させていただくことになりました。

面接、説明会を経て5月からようやくおはなし会へのデビュー、先輩のアドバイスから早めに子ども図書室に入って本を選び、目を通しますが、初日からちょっと素敵な本と出逢いました。たくさん絵本の中から永く読んでみたいと思える本に出逢えることもこれからの楽しみです。

さて、おはなし会ですが、いざ子どもたちの前に立つと何とか聞いてもらおうと、

ついつい力が入ってしまいました。一方的に「聞かせる」のではなく、子どもたちの顔を一人一人見ながら「聞いてもらえる」そんなお話ができるよう心がけていきたいと思います。

ボランティア室に貼られた資料の中に「ボランティアの報酬は感動である」という言葉がありました。それは逆に言うと感動につながるおはなし会にしないではいけないと言う意味だと感じます。

毎日が勉強であると同時に、その日その日の子どもたちとの出逢いを大切に、おはなし会メンバーの一員としてがんばっていきたいと思っています。

広報ボランティアに参加して

小松 正恵



16年度から図書館のボランティアに参加させていただくことになりました。普段

は自分のことや家族のことにあわただしく追われているばかりですが、「何かお手伝いできるようなことがあれば」という気持ちで一步を踏み出してみました。子どもが大学生になり一人暮らしを始めたため、時間

の余裕もできました。この時間を仕事以外に何かフレッシュできることに使いたいと思った次第です。

今まで図書館へ来ても、必要な本を探し出すとそそくさと帰ることが多かったので、図書館の事情も何もわかりません。果たしてどのようなことお手伝いさせていただけるのかわかりませんが、どうぞよろしくご指導をお願いいたします。

子ども読書フェスティバル開かれる 図書館ボランティア延べ47名参加協力

5月5日(水)、小雨の中、図書館と三の丸広場を舞台に恒例の子どもフェスティバルが開催されました。前日準備に13名、当日34名、延べ47名の図書館ボランティアの皆様が参加協力しました。



あいにくの天候で古本フリーマーケットが館内の1階ホールと3階に移った事もある、正面玄関をはさんで館内と館外とでは人の集まりがまったく異なり、視聴覚ホールでのアニメ映画会、演劇の公演など催事の盛況もあいまって館内はたくさんの人で大賑わいでした。

反面、雨の中での外のイベントは人影も少なく寂しい状況でした。それでも「気づるみ」ボランティアを担当した10名の私達の仲間は、外で子ども達と記念写真を撮ったり遊んだりして楽しさを演出するのに懸命でした。

また、オープンカフェ担当の7名のボランティアも1杯100円のコーヒーとジュースを販売するため、フェスティバル開始前から準備してお客様の接待に終始追われて

いました。当日の売上は29,000円、材料仕入れ代を差し引くとなんと20円の利益でした。雨天のため事前に予測した客数と大きな差が生じ材料が残りました。保存のきく物は10月のフェスティバルに使用する予定です。

三の丸広場担当の4名のボランティアも来場者の皆様に積極的に関わり喜ばれていました。

視聴覚ホールでは、午前午後とも様々なイベントが開かれ、その度に入・退場者の誘導案内に6名のボランティアは忙しく臨機応変に対応していました。

3階会議室の「鯉のぼり・紙飛行機づくり」にはたくさんの親子が参加され、7名のボランティアは細かな工作指導の手伝いや参加者へのサービスに追われていました。

3階廊下までバザーコーナーや遊びコーナーが移転したため、1階から3階まで館内はたくさんの方が入り熱気がありましたが、広場でのイベントや各種物品や食物販売のテントは、残念ながら人が集まらず、フェスティバルとしてはさびしい光景があちこちで見受けられました。

県立図書館では毎年、春と秋に読書フェスティバルを開催しています。

ボランティアの皆様、今後共これらの行事に積極的に参加され、私達の横の繋がりを深め合い、活動の輪を広げましょう!!

〔黒澤 英宣〕



ボランティアの皆さん

エールメッセージ!

各委員長さんから

外国語資料

小黑 直美

外国語資料整理は個人での作業ですので、続けられるか心配という方もいらっしゃると思いますが、一緒にがんばりましょう!



代読サービス

軍司 恭子



私がボランティアで感じたこと。誠意努力・継続・向学心・素直・柔和・自然体・友情の輪...などなど。そういうことが私を支えてくれます。好きなことを楽しく、力まず、あるがままにすることが永續きの条件です。ちなみに私でも二桁年務める事が出来ました。

三の丸書庫

小松崎 勇

本年度は幸いにもボランティアの数が増え、活動日には賑やかになりました。

三の丸書庫から、市町村の図書館・公民館・学校等へスムーズな貸出しができるよう、整理を進めたいと思っています。

是非、皆様のご協力ご支援をお願いします。



資料配架

田所 久美



資料配架は孤独で地味な作業であり、本の山と細かい字との格闘です。しかし普段は縁のないような本に出会えたり、運動不足の解消になったり、何より職員さんの

「いつもありがとうございます。」という一言に励まされ、またがんばろうという気持ちになるのです。

児童サービス

水野 恵美子

児童サービスでは、今年から新たに仲間に入られた方々を交えながら、スタートしました。今まで知らなかった「手遊び」を取り入れたり、お話ししながら、絵本を通して出会った子ども達との交流を大切にしています。「目と目」を合せながら楽しく読み聞かせをしております。



特技を生かしたもの

福田 陽一



私達のグループは2名です。「子どもたちの創意工夫する力を伸ばす絵画工作の指導」「パソコン及びパソコンを利用したデータ処理並びにその指導」という特技を生かして、図書館や協議会のお手伝いをしたいので、声をかけてください。自己研鑽のため難しい仕事にも挑戦します。

編集後記

新しい年度の新しい顔ぶれが参加し、広報委員会は活気が出てきた感じです。

前年度まで発行のたびに尽力された市川さんが退会されパソコンのベテランが欠けて、さあ困ったとなった時、天の助けがありました。新しく、特技委員会を結成され、県立図書館IT講習会の講師である福田さんに、ご指導ご協力いただけることになりました。

委員長は一時「次の発行は手書か」と言っていたましたが、これで安心です。熱心にパソコンを修行し、作業を進めている鶴丸さんに加え、新人の女性方もパソコンの技術と知識があるとのこと、安心のスタートとなりました。

私も後ればせながら、72才申年の手習いでパソコンの勉強を毎日しておりますが、これはアテになりません。

〔上條 哲〕